

<p>【技術の名称】 板筋接合を用いた S 柱 RC 梁接合構法 -RC梁を鋼材を用いた柱に接続する鋼コンクリート構造接合構法- (改定1)</p>	<p>性能証明番号：GBRC 性能証明 第17-02号 改1 性能証明発効日：2018年9月3日</p> <p>【取得者】 株式会社大林組</p>
---	--

【技術の概要】

本技術は、鋼材を用いた柱（SRC 柱、SC 柱、CFT 柱、充填被覆型 CFT 柱を指し、以下、“S 柱”と称する）と鉄筋コンクリート造梁（以下、“RC 梁”と称する）を接続する構法である。RC 梁主筋に生じる応力を S 柱鉄骨部材に直接伝達させることを意図し、RC 梁主筋を接続する金物と鋼板を溶接により一体化した接合部材を介して、S 柱を構成する鉄骨部材に直接接続する構法である。なお、本構法は、一般階の RC 梁だけでなく、最下階の埋込み柱脚部にも適用できる。

【改定の内容】

新規：GBRC 性能証明 第17-02号 (2017年6月13日)
 改定1：GBRC 性能証明 第17-02号 改1 (2018年9月3日)
 ・主筋接続金物の追加（モルタル充填タイプ）

【技術開発の趣旨】

RC 梁を柱に剛接合する場合、梁主筋を柱梁接合部に必要な長さを確保して定着させる必要がある。S 柱（SRC 柱、SC 柱、CFT 柱、充填被覆型 CFT 柱）でも同様である。しかし、柱部材の一要素に鋼材を用いた場合、RC 梁の主筋を柱梁接合部に必要な長さを確保して定着させるために、鋼材を避けて配筋しなければならない。その結果、RC 梁に構造耐力上必要な主筋本数を配筋するために、梁幅を大きく計画する等の必要が生じる。そこで、躯体断面の合理化を目的として、RC 梁主筋を柱を構成する鋼材に直接接続させる接合方法（板筋接合）を開発した。

【性能証明の内容】

本技術についての性能証明の内容は、以下の通りである。

申込者が提案する「板筋接合を用いた S 柱 RC 梁接合構法 設計施工要領」に従って設計・施工された S 柱 RC 梁接合部は、鉄筋に生じる引張力を主筋接続金物、高力ボルト摩擦接合部等を介し S 柱鉄骨部材に確実に伝達できる。

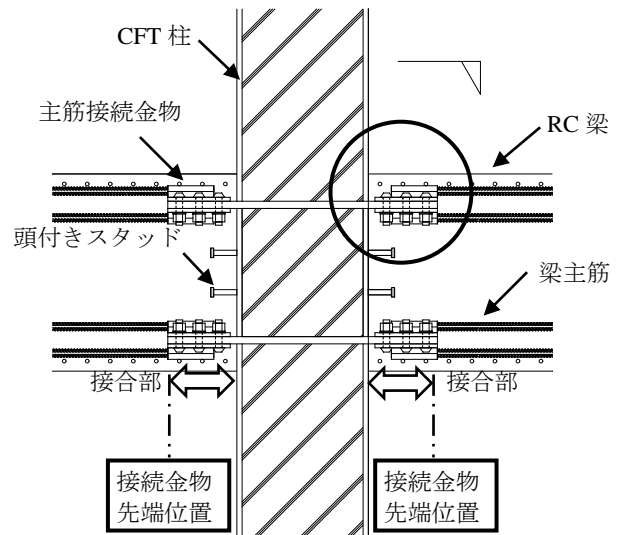


図1 本構法を適用した CFT 柱 RC 梁接合例

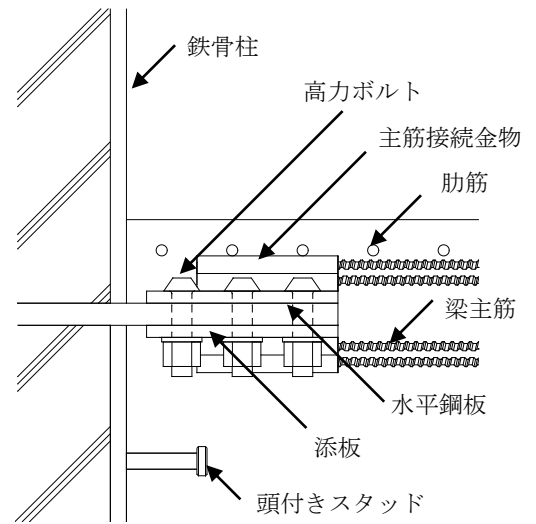


図2 本構法を適用した CFT 柱 RC 梁接合例 (拡大図)

【本技術の問合せ先】

株式会社大林組 担当者：長屋 圭一

〒108-8502 東京都品川区港南 2-15-2 品川インターシティ B 棟

E-mail : nagaya.keiichi@obayashi.co.jp

TEL : 03-5769-1628 FAX : 03-5769-1740